



2018

題字：野口優花

〒896-1201 薩摩川内市上飯町中飯191-1 上飯中学校 生徒会

清者(表)：吉尾真央、中尾木琴、岩崎真央、家吉真央
(裏)：中尾木琴、岩崎真央、家吉真央
リ-ダー：家吉真央

11月24日、冷たい雨の降りしきる中、校内持久走大会が行われた。保護者や地域の方々の声援もあり、男子は5km、女子は3kmを完走した。悪天候にもかかわらず、3人が新記録を樹立し、歴史に刻まれる大会となった。<これまでの上中学生の取組> 全校生徒で、本番に向けて一生懸命頑張った。100kmキャンペーンに取り組んだ。一人一人が走る距離を求め、その目標に向かって部活動や放課後に日ごとに自主的に外に出て目標距離を達成するといふ取組だ。時には友達や家族と走ることで、リフレッシュできない時間となった。合同体育では、一定の速さで走れるようにしたり、斧に走れるように意識したりして練習に取り組んだ。グラウンド一周を走る時間を決め、仲間と「選いよし」を練習をした。斧に走れるコツもみんなを出し合い、実践しながら、一人一人が自分の目標達成を目指して



新記録を出した3年小村楓さん。



100mの合図で勢いよくスタートした女子。

千里の道も一歩から

校内持久走大会

(岩下・濱邊)

結果	男子	女子
1位	村山 18分19秒	小内(桐) 15分14秒
2位	山原 21分33秒	吉木 17分15秒
3位	原 21分33秒	尾中 17分15秒

雨の中、フワートライに立つ私たちの耳に、パントというピストルの乾いた音が聞こえた。振り返り持久走大会のスタートだ。降り続く雨は私たちの最大の敵だ。前が見えにくく、足元が滑りやすくなる。さには沿道の「頑張れ」「あともう少し」という温かい声援が私たちの心に火を灯す。雨の中、だが、練習の成果を發揮し、全員が清々しい顔でゴールテープを切った。(家吉)

私は、今まで目標としていた13分台を記録することができ、本当にうれしかった。大会までの練習はきついことばかりだったが、やってきてよかったと思う。ゴールテープを切った瞬間は忘れられない。(家吉 真央)

昨年の記録を越え、新記録を出すことができた。楓さんを越えることができず、2位で悔しかった。この悔しさをバネにして、来年の持久走大会では、もっといい記録を伸ばしたいと思う。(内山 翔斗)

昨年引続き1位と新記録樹立を成し遂げられ、うれしく思う。今年も新記録を出さないといけない重圧があった。当日は雨がコンディショニングは最悪だったが、無事目標を達成でき、良い思い出になった。(小村 楓)

この日のために、放課後や授業でパース走やインターバル走に取り組み、きついついトレーニングを重ねてきた。当日はあいにくの雨だったが、それぞれの目標に向かい、必死に走った。雨の中を懸命に走る姿は沿道で応援する保護者や地域の方々へ感動を与えた。また来年もバストを尽くせるように練習に励みたい。(中尾)

雨の降る中の持久走。懸命な顔つきで、必死に走る子供たちの姿が、とても印象的でした。バストを尽くした子供たちに拍手を送ります。(2年 保護者)

雨の中の応援と、持久走。濡れながら走る生徒たちを見て、応援することしか出来ないのがもどかしい。ういでした。必死に走る姿に、大きな成長を感じました。(2年 保護者)

甌島ツリーリズム

甌の中学生大集合

11月4日土曜日、甌島の中学生が集まる交流会が行われた。上中からは5人が参加し、甌島の中学生と交流したり、甌島について学習したりした。甌島の未来について考えるよい機会になった。

里港で下甌の中学生と合流し、まず浦内発電所を見学しに行った。貯めた電気を電気が車のエンジンが壊れた後にも使えるという、自作したものが知りない技術が使われていて、とても驚いた。

次に、上甌県民自然レクリエーション村に向かい、地域おこし協力隊の方々の講話を聞いた。島外から地域活性化のために来ている地域おこし協力隊の方々、甌島をより良くするためにそれぞれ得意な分野で活動しているミヒカ分かった。私達には何かできるかについて考える良い機会になった。

昼食では、ヘルスマイルの交流会をとおして、甌島の中学生たちと親睦を深めるとともに甌島のこととさくらに知ることとできた。これからは、この交流会を通して甌島がひとつになっ、ていてほしいと思う。

私は、今回が2回目の参加だったが、前回より活動内容がレベルアップされていて、とても充実した一日になった。今までは下甌の中学生と話すことがなかなかできなかったが、甌島ツリーリズムのおかげで友達になれたのでうれしかった。

今回、他校の中学生との交流で、これまであまり会話をしたことがなかった人と話をしたり、レクリエーションを通して楽しく交流したりして、友情を深めた。来年の交流会での再会が楽しみです。

（中尾 優希）

（小村 野）

（中尾 博）

（小村 西）

（中尾 博）

（小村 西）

（中尾 博）

視点 決定！上中学生の流行語大賞

上中生が選んだ流行語大賞

「35億」
「ひみん」
今年の新語流行語大賞「村度」

「村度」
「インスタ映え」
今年も、ユーキャン新語・流行語大賞が発表された。

「インスタ映え」は、一年間で広く大衆の目、口、耳をにぎわせた言葉が選ばれる。そこで、上中生で流行語を選んだ。

「ユーキャン」が選んだ流行語大賞を比較し、なぜ2つに違いが出たのか考えてみた。

まず、上中生がなぜこの2つを選んだかという理由は、「テレビなどでよく見聞きしたから」、「普段の会話の中でよく出てきた言葉だから」というものが多かった。逆に、ユーキャンの選んだ新語・流行語大賞の「村度」は、私たちがあまり使わない言葉で、「村度」は言葉の意味が難しく、だんの会話の中であまり使われない。また、「インスタ映え」は、「インスタグラム」というものに關わることはあまりないため選ばれなかったと考える。

これらのことから普段の生活にはなじみず、難しい言葉は私たちに浸透せず、上中学生の流行語大賞に選ばれなかったのではないかと推測した。

今回の記事を通して「村度」をはじめ、初めて耳にした言葉もあり勉強になった。また、テレビや新聞などで見聞きして疑問に思ったり初めて聞いた言葉は、意味を調べ、自分の言葉の領域を広げていきたいと思った。

（川畑 内山 柁木）



編集後記

あけましておめでとウございます。2018年の発行です。今月号から、一・二年生が中心となり海風作成をしました。行事を通して、様々な体験や思い出を作ることでできました。読みやすさや内容を工夫した短風づくりを努めますので、応援よろしくお願いします。

（中尾 蓮夢）